

○菊地恵一委員長 予算特別委員会を再開いたします。

休憩前に引き続き、質疑を継続いたします。

立憲・無所属クラブの質疑を行います。

なお、質疑時間は、答弁を含めて十分です。熊谷義彦委員。

○熊谷義彦委員 少子化が進行する中で、各学校の存続にも関わる問題が出てきております。ゼロ歳児からの出生数も判明しており、数字だけで判断すれば一定の基準で機械的に統廃合が進んでいきます。廃園あるいは廃校とへの結論にも達してしまいます。そういうことではこれまでの地域の歴史も文化も継続できなくなることや、地域の衰退を更に加速させてしまうことにもつながると私は考えております。そうした意味合いにおいて、教育や文化の中心であり、信頼を刻む学校の存続は大事にしていかなければいけないというふうに私は考えております。こうした意味で、今回は教育問題に集中しながら、知事には質問しないで教育長に質問をさせていただきます。

県立高校の再編が議論されている中で、私からせひ検討していただきたい課題があります。一つには、現在の公私間協定を——いわゆる公立私立の学校の公私間協定を全県的に広げることが必要ではないのかと思います。少子化の中での公立、私立学校と共に共存するためにも、私はその見直しをすることが必要だろうというふうに思いますが、教育長の見解をお聞かせください。

○小野寺邦貢総務部長 公立高校と私立高校が協調して全日制高校への進学希望者を受け入れるため、我が県におきましては、現在中部地区におきまして、それぞれの入学定員に目安を設け共有しているところでございます。公立高校と私立高校の共存に向けて、今後の高校進学見込み者数の推移などを基に、課題や対策などを日頃から検討し、協議しているところでございまして、入学定員の全県的な目安を含め、引き続き議論を深めてまいりたいと考えております。

○熊谷義彦委員 県の教育委員会の考えはいかがですか。

○佐藤靖彦教育委員会教育長 公立高校と私立高校の収容対策の在り方につきましては、少子化が急速に進む現状も踏まえ、現在も私立高校側と課題を共有し、意見交換を行っているところであり、引き続き、私立高校の関係者の皆様の御意見を丁寧にお聞きしながら、しっかりと検討してまいりたいと考えております。

○熊谷義彦委員 今の答弁を聞いていると、常にそういうた問題を共有しながら議論しているという話なのだけれども、私は、現在県の教育委員会の中で高校再編の話が進んでいる、それだけ厳しくなつてきている状況があるからこそ、公私間協定を見直すべきだということをお話ししました。そういうた状況を踏まえて、いつ頃までにどういう方向性を出そうという考え方なのですか。どちらでもいいですから答弁してください。

○小野寺邦貢総務部長 今のところはいつまでにという結論を出す時期までは固まっている状況ではありませんけれども、ただ、問題意識は公立、私立両方で共有しておりますので、そのしかるべきタイミングに、なるべく早く今後の方向性を見いだせるよう議論を深めてまいりたいと考えております。

○熊谷義彦委員 ということは、現在そういうた審議会を立ち上げていると、そして議論をしていると。その議論をしている審議会の任期はいつまでですか。

○小野寺邦貢総務部長 審議会の委員を任命して、そこで審議していただいているといふものではございません。公立側、私立側それぞれ充て職で検討メンバーになった方々に検討していただいているところでございます。

○熊谷義彦委員 それでは不十分なんですよ。きちんと公的な場で公的な審議会の委員として公的な議論をしてもらう、議事録に残してもらう、それが結果としてどのように反映するか分からなければ、そういう結論を私は求めているのです。そういう公的な機関での公的な審議をすることは考えていないのですか。

○小野寺邦貢総務部長 今の検討の場というのは、宮城県公私立高等学校協議会というところで検討いただいておりまして、大体年間二回ぐらい検討していただいているところです。

○熊谷義彦委員 納得はできないのだけれども、私の問題意識は共有していただけるものだらうと、私はどういう結論が出ようとそれを共有していただけるものだらうというふうに思います。こうした意味で、今何回も言うけれども、公的な審議会をつくつて議事録を残して結論を出すと。そして、今日の少子化時代にふさわしい公私間協定をきちんとつくつていくことが差し迫った大きな課題だらうということだけは指摘しておきたいというふうに思います。ぜひ検討して急いでいただければ幸いだというふうに思います。答弁は要りません。

次に、現在の公立学校の受験に関わって、現在、全県一学区になつてているわけであります。これを見直して学区制をもう一度昔にそのまま戻すとは言わないけれども、学区の見直しをしていく必要が私は出でてきているのではないかというふうに思いますが、いかがですか。

○佐藤靖彦教育委員会教育長 今後急速に少子化が進展していく状況におきましては、非常に危機感を持つております。こうした中でも、地域に必要な学びを確保し、生徒が地元にいながら、希望する進路を選択できる魅力ある教育環境を整備することが必要であるというふうに認識しております。現在、次期県立高校将来構想の策定を進めているところであります。各学校の特色に応じた選抜方法についても重要な論点の一つと捉えておりまして、今後、県民の皆様や教育現場の声、そして各地域の実情を丁寧にお聞きしながら、総合的に検討してまいりたいと考えております。

○熊谷義彦委員 今の答弁の中に学区の見直しという言葉は一切出てこない。学区の見直しについて私は検討するのかどうかを聞いているので、その言葉が一切出てこないというのは不思議でしようがない。どうですか。

○佐藤靖彦教育委員会教育長 今、県立高校の将来構想を策定しているところですけれども、様々な学校の配置につきまして一から考えているところでございます。その中で、各学校の特色に応じた選抜方法を検討する中で、総合的に検討してまいりたいということです。

○熊谷義彦委員 各学校の選抜方法というふうにおっしゃいましたよね。選抜方法と学区というのはイコールではないんだよね。各学校で選抜方法を検討しなさいということを学校に投げているという意味合いなのか、それと区割り見直しは全然違うと思うのだけれども、いかがですか。

○佐藤靖彦教育委員会教育長 選抜方法というふうにお話をさせていただきましたけれども、例えば i-de-a1 スクールであれば i-de-a1 選抜というようなものを今検討して進めていたところでございます。そういう選抜方法を考える中で、全体として総合的に検討してまいるということでございます。

○熊谷義彦委員 総合的に検討するというのは、何で学区見直しということを検討材料に入れるような言葉を出せないので。それが分からぬ。お答えください。

○佐藤靖彦教育委員会教育長 現在の全県一学区を含めた選抜方法の検証等も含めて総合的に検討してまいりたいということです。

○熊谷義彦委員 ぜひきちんと学区見直しも含めて――時間がなくなってきたので、次に移りたいのですが、やめさせていただきます。ありがとうございました。